

所蔵品展 No.170

作品の「まわり」に目を向けてみたら



岸田劉生《外套の麗子》1919年
河村コレクション

作品のまわりには様々な魅力があります。ある作品の額をはずしてみると、裏にも絵が描かれていたり、裏側に有力な情報（誰に贈ったなど）が隠れていることも。作品のまわりに注目してみたら…コレクションの新たな魅力への扉を開きます。

2026/5/30(土)～7/12(日)

9:30～17:00 (16:30 最終入館) ※月曜日休館

てみたら

コレク
ション

夢や無意識の領域、偶然性などを表現に取り込み、20世紀前半の有力な芸術運動となったシュルレアリスム。本来の文脈から切り離されたもの同士を出合わせて思いがけないイメージを得る手法や、自動記述などにより、表現の可能性を広げました。

ヨーロッパ発祥のシュルレアリスムですが、日本、そして下関にも似た特徴を示す作家たちがいます。不思議でちょっと不気味、でもとても魅力的な超現実（シュルリアル）の世界をのぞいてみましょう。



堀晃《鳥への儀式》1981年

ンでみるシュルレアリスム

● 5/30 (土) ～ 7/12 (日)

所蔵品展 No.170

作品の「まわり」に目を向けてみたら／
コレクションでみるシュルレアリスム

● 5/30 (土) ～ 6/28 (日)

特集展示「19世紀末ポスター」

● 観覧料

一般：210円 (160円) / 大学生：100円 (80円)

※ () 内は 20名以上の団体料金。※18歳以下の方は無料。

当館学芸員によるギャラリートーク

① 19世紀末ポスターについてお話しします

日程：6/6 (土)

時間：11:00～ / 14:00～ ※各30分程度

② シュルレアリスムのコーナーを中心にお話しします

日程：6/21 (日)

時間：11:00～ / 14:00～ ※各30分程度

料金：無料 (当日の観覧受付が必要)

下関市立美術館



美術館HP